

「人はなぜ花を愛でるのか」 をめぐって

白幡洋三郎 Yozaburo Shirahata
(国際日本文化研究センター)

花の美しさ

—本能的(生得的)美意識と文化的(後天的)美意識—

色鮮やかで華麗な花が咲いているのを見ると、誰もが美しいと感じ、好ましいと思う。……いや、それは本当か？ と植物学者の中尾佐助氏は疑った。

このことについて中尾氏は次のような例を持ち出して、答えは必ずしもそうだとは言えないと述べている。

「日本のヒガンバナは人家付近に多く、華麗な花が咲くが、今まで日本人はそれをむしろ嫌い、庭に植えたりしていない。」(中尾、1986)

日本ではヒガンバナを庭に好んで植える人はまずいない(写真1)。なぜならヒガンバナは、彼岸の頃に墓参りにゆくと咲いていたりして死者につながるイメージがあるからである。そのせいか、



写真1 ヒガンバナ



写真3 ハイビスカス



写真2 ハナバチ

少なからぬ日本人にとって不吉な感じを抱かせる。そこで、田んぼの畦などに咲いていることはあっても、わざわざ庭に植えようとはこれまででなかったのである。

ところが、欧米諸国は日本から球根を輸入し、好んで庭園で栽培したりする。形や色からすれば